

野 菜

実 況… (28年7月20日現在)

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト

半促成栽培は、福井、南越地区では7月20～25日で収穫終了予定となっており、平年より5日程度早まる見込みである。若狭地区の夏越栽培では、12～13段果房を収穫中である

灰色かび病、うどんこ病が少発、葉かび病、コナジラミ類が微発である。

坂井北部丘陵の抑制栽培は7月12日から、若狭地区の越冬栽培では7月7日から定植されている。

(2) ミディトマト

福井・坂井・南越地区の半促成栽培は、6～8段果房を収穫中で6月下旬から7月上旬にかけて小ひび果、つやなし果の発生が多くなった。奥越地区の夏秋栽培では、12～13段果房が開花し、3～5段果房が収穫中である。5月下旬定植の池田町では、8～9段果房が開花中で、7月末から収穫開始見込みである。

青枯病が少発、葉かび病が少～多発、うどんこ病は微～中発、灰色かび病が微～少発、トマトサビダニが少～一部多発、アザミウマ類が少発である。

福井・坂井・南越・若狭地区の抑制栽培では、6月上旬～7月下旬まで順次定植されており、早いもので4～5段果房が開花となっている。

若狭地区の促成長期どり栽培では、高浜町で7月3日から、小浜市で7月21日から定植開始となっている。

(3) キュウリ

半促成栽培は、福井地区では6月30日で収穫終了、二州地区では収穫終盤となっている。

抑制栽培は、福井地区では7月29日頃に定植開始予定、二州地区では8月1日に苗を配布する予定である

(4) ハウススイカ

三里浜砂丘地は6月13日、坂井北部丘陵地では坂井市で6月30日、あわら市で7月12日に出荷を終了した。

(5) メロン

アールスメロンの半促成栽培は、坂井北部丘陵地で6月20日から、三里浜砂丘地では7月1日から開始された。品質は良く2L～3L中心の玉揃いとなっている。

抑制栽培は、坂井北部丘陵地で6月15日から、三里浜砂丘地で6月10日から、順次播種が行われた。7月上旬から定植が行われており、早いもので7月8日から雌花の開花が始まっている。

べと病、ハダニ類が少発である。

坂井北部丘陵地のアンデスメロンは、6月17日から出荷が始まり、継続出荷中である。

えそ斑点病、べと病、つる枯れ病、アブラムシ類が少発である。

マルセイユメロンは、坂井北部丘陵地で7月6日まで、三里浜砂丘地で7月4日まで収穫が行われた。3L～4L中心の出荷で、品質は良好であった。

葉根菜類

(1) 軟弱野菜

福井地区のホウレンソウは、6月上旬播種が40～45日で収穫となっている。
萎凋病が少発である。

(2) 青ネギ

若狭地区の周年水耕栽培は5月下旬播種が50～55日で収穫となっている。
アザミウマ類が少発である。

2 露地野菜

果菜類

(1) ピーマン

4月下旬定植の丹生地区は、草丈65～100cm、第15～16果房開花で第10～11果房を収穫中である。

白絹病、アブラムシ類が一部微発である。

(2) キュウリ

丹生地区は、5月下旬定植が収穫中である。若狭地区の加工キュウリは、6月25日頃から出荷が始まっている。

褐斑病が微～少発、べと病が多発、うどんこ病が中発、ウリノメイガが微発である。

(3) スイカ

三里浜砂丘地は、7月4日～13日にかけて収穫された。坂井北部丘陵地では、7月8日から収穫が始まり、8月上旬まで出荷見込みである。南越地区では、7月29日から出荷開始予定である。

つる枯病、炭疽病が少～中発、べと病、アブラムシ類、ハダニ類が少発である。

(4) カボチャ

坂井北部丘陵地は、7月初旬から収穫開始である。大玉傾向であるが、出荷玉数は少ない。

うどんこ病が中～多発である。

(5) ナス

奥越地区は、主茎長140～150cmで昨年並みの生育となっており、継続収穫中である。

うどんこ病が少～中発、青枯れ病、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、カメムシ類、タバコガ類が少発である。

(6) スイートコーン

福井地区は、旧清水町で、4月下旬定植が7月5日～10日に出荷された。永平寺町では、6月30日から出荷が始まり、現在5月初旬直播したものを収穫中である。全体的には良好であるが、紋枯病の多発圃場では肥大が悪くなっている。

紋枯病が一部多発、アブラムシ類、アワノメイガが少発である。

(7) エダマメ

二州地区は、4月下旬定植のマルチ栽培で、7月上旬から収穫が始まり終了している。

4月下旬播種のマルチ栽培、5月上旬播種の普通栽培は、7月下旬から収穫開始予定である。

葉根菜類

(1) ブロッコリー

夏植え秋冬どりの播種が、福井地区で7月10日から、南越地区では7月20日から始まり、8月中旬から定植開始予定である。若狭地区では、7月下旬から定植開始予定である。

(2) 白ネギ

3月下旬定植は、福井地区で、葉鞘径が23～30mmである。4月上旬定植では、坂井、奥越、若狭地区で、葉鞘径が20～25mmである。4月中旬定植では、福井、坂井、若狭地区で、葉鞘径が17～22mmとなっている。4月下旬定植では、奥越、若狭地区で、葉鞘径18～21mmとなっている。5月上旬定植では、坂井、奥越、南越、若狭地区で、葉鞘径が13～19mmとなっている。

さび病が少～一部多発、白絹病、葉枯病が少～中発、萎凋病、軟腐病、黒斑病が少発、アザミウマ類が少～多発、ハモグリバエ類、ネギコガが少発である。

奥越地区の越冬どりは、自家育苗が7月下旬から定植開始となっている。購入苗は8月2日に苗を配布する予定である。

(3) キャベツ

夏植え秋冬どりは、坂井北部丘陵地で6月16日から播種開始となり、7月14日から定植が始まった。福井、坂井、奥越、南越地区の水田地帯では、6月22日から播種が行われ、7月20日から順次定植が行われている。雨天により、畝立て等の圃場準備が遅れている。

コナガが微発である。

(4) シソ

福井市のシソは7月10日頃に出荷終了した。

根菜類他

(1) ラッキョウ

3年子は6月4日から出荷開始で、7月中旬時点で約6割が収穫終了した。4月の強風による葉の傷つきにより、肥大不足が目立つ。

(2) カンショ

坂井北部丘陵地は、6月30日で定植が終了し、生育は平年並みである。

(3) サトイモ

奥越地区は、主茎長90～110cm、生葉数5～6枚と平年並みの生育である。

アブラムシ類、ハダニ類、セスジスズメが少発である。

(4) ニンジン

3月下旬播種は、三里浜砂丘地で6月26日から、坂井北部丘陵地では6月22日から収穫が行われ、7月上旬に終了した。

夏まき秋冬どりは、坂井北部丘陵地で7月20日頃から播種開始となっている。

対 策

8月は晴れの日が多い見込みと予想されていることから、日中のハウス内作業は40℃を超えることがあるため、管理作業は涼しい時間帯に行う。また、無理な作業は絶対に避け、水分補給や十分な休養を取って熱中症を回避する。農薬散布を行う場合は、日中の高温時を避けて早朝または夕方の涼しい時間帯に行う。

施設内においては、寒冷紗による遮光や敷きわらを厚くするなど地温の低下に努める。特に、猛暑日が続く場合は、高温障害の発生が懸念されるため発生防止を徹底するとともに、露地作においても干ばつ害に対する予防策に万全を配する。また、害虫の発生も多く

なることから早期発見と適正使用による農薬防除に努める。なお、秋冬野菜については、圃場準備を計画的に進めるとともに、安定した収穫を得るため、適期播種・適期定植に努める。

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト

高温による生育停滞や着果率の低下を防ぐため、ハウスのサイド、肩上部、妻部、連棟の谷部等を大きく開放して換気を十分に行う。特に、高温になる日中の時間帯には、遮光を行い気温の上昇を抑える。しかし、過度な遮光はトマトを徒長させ、花質を悪くするので留意する。

抑制栽培では、過繁茂の防止と根群発達を促進させるため、かん水は定植後から3段開花頃まで控えめにするが、萎れさせないように適宜かん水を行う。果実肥大が始まる3段開花頃になると、着果負担が増し、草勢が急激に低下しやすくなるので、追肥、かん水を積極的に行うとともに、遅れないように留意する。ホルモン処理は空洞果の発生を防ぐため、1段果房につき3～4花咲いた時に、夕方トマトトーン100倍にジベレリン5～10ppmを混用して噴霧する。さらに、高温で害虫発生が多くなるので、防除を徹底する。

(2) ミディトマト

高温で果実の成熟日数が短いため、3段果房開花頃から節水管理に努める。ただし、高温下では草勢確保がしにくく、土壌の乾燥による尻腐果の発生も出やすくなることから、極端な節水管理は避け、草勢や開花状況を見ながら地温の低い早朝にかん水する。軟化果の発生は、高温時に多発するため、ハウス換気や遮光により果実温度を下げる。また、白ぶくれ症果、金粉症果の発生はアザミウマ類やハダニ類が関与するため防除を徹底する。

(3) 抑制ネットメロン

開花期まではやや控えめなかん水として根群の発達を促し、収穫前の極端な草勢低下を防ぐ。着果後はかん水を増やし果実肥大を促す。ネット発生がみられたらかん水を控え、ヒルネットの発生を防ぐ。さらに、ネット発生盛期には再びかん水量を多くして果実肥大を促すとともにネット発現を良くする。なお、高温のためネット発現が弱くなりやすいので、ネット発生前にはハウス換気を十分に行って果実の硬化を図っておく。また、うどんこ病、アブラムシ類等の病虫害防除を徹底する。

軟弱野菜

(1) ホウレンソウ

高温期は立枯病等の発生が多くなるので、播種時に十分にかん水し遮光を行って地温を下げる。なお、遮光は土壌の乾燥による発芽不良や生育遅延を防ぐ効果はあるが、ホウレンソウの生育が軟弱となるため播種密度を下げて徒長を防ぐ。また、高温時の収穫は適期幅が短いので、収穫労力を考慮して段播きとする。一方、作付けしないハウスでは高温を利用して太陽熱土壌消毒を行う。

(2) コマツナ

コナガ、アオムシ、キスジノミハムシ等の害虫は、ハウス出入り口やサイドに寒冷紗等を張ることで防止する。また、徒長防止のため播種密度を下げる。

2 露地野菜

果菜類

(1) ナス、ピーマン

敷きわらを厚くすることで高温による根の衰弱を防ぐとともに、適宜にかん水や追肥を行うことで草勢の健全維持を図り、つやなし果、日焼け果、尻腐果等の発生を防ぐ。高温期は、常に畝間が湿っている程度の土壌水分が必要であるが、かん水は夜間地温が下がってから畝間に入水する。畝の2分の1程度の高さまで湛水したら直ちに落水する。ただし、湛水時間はできるだけ短くする。また、接木苗を使用しなかった場合は、青枯病の蔓延が懸念されるので畝間かん水は避け、かん水チューブ利用等によるかん水を行う。また、ハダニ類、チャノホコリダニ、ミナミキイロアザミウマ等の害虫の発生も多くなるので、誘引・整枝・摘葉を徹底する等、薬剤散布の防除効果を高めるとともに、健全な樹体を維持し、果実品質の低下を防ぐ。

(2) キュウリ

根が浅く分布することから特に、敷きわらを厚くして高温による根の衰弱を防ぐ。また、追肥、かん水を適宜に行って着果負担による草勢低下を防ぐ。なお、かん水は夜間地温が下がってから畝間に湛水し、直ちに落水する（畝間が長時間湛水状態にならないようにする）。また、古葉や込み合った葉は適宜に摘葉し、べと病、褐斑病、斑点細菌病、うどんこ病等の防除を徹底する。

葉菜類

(1) キャベツ、ブロッコリー

水田転換畑では、ゲリラ豪雨や台風による大雨が、圃場の排水不良と相まって生育不良、品質低下につながっている。このようなことを避けるため、圃場内の排水対策を十分に行う。また、耕うん・整地作業はできるだけ碎土率を高め、定植後の活着促進や除草剤効果が十分に発揮できるようにする。定植は、午後気温が下がってから行い、根鉢が隠れる程度にやや深めに植え付け、直ちにかん水を行って乾燥を防ぐ。活着するまでは圃場が乾燥しないように管理する。なお、除草剤は土壌が湿っている時に、乳剤を散布するのが効果的である。害虫対策は、育苗期後半時にセルトレイに灌注する農薬が省力かつ予防効果が高いため積極的に活用する。

(2) 白ネギ

猛暑日が続くと、ネギの生育は停滞するため、土寄せは生育状況を見て判断して行う。ただし、高温時に土寄せをする場合、降雨により軟腐病の発生を誘引する場合があるので、事前に粒剤などで予防散布を行う。また、高温乾燥が続くとアザミウマ類や軟腐病等の病虫害の発生も多くなるため、早期徹底防除に努める。

根菜類

(1) ダイコン

高温によって生育不良や根部の生理障害が発生しやすいので、8月下旬に温度が下がってから播種する。早まきを行う場合は、ウイルス病の発生防止のため寒冷紗等による被覆を行う。また、圃場は深耕し、碎土率を高めて排水や通気性を良くしておく。なお、施肥直後の播種では曲がり根や岐根が多くなるので、早めに圃場準備を済ませておく。なお、播種時には殺虫剤を施用して害虫の初期防除に努める。

(2) ニンジン

圃場の準備は、プラソイラー等で排水対策をしっかりと行い、特に収穫機を利用する場合は、必ず施工しておく。センチュウ類対策として、播種前に殺虫剤を土壌混和してお

く。耕うんはできるだけ細かく碎土し均平にする。播種後のかん水は土壤水分が十分確保できるように散水するとともに、かん水ムラは発芽不良、生育の不揃いの原因になるので、風向きやかん水チューブのねじれや詰まり等に注意しながら実施する。

(3) サトイモ

圃場の乾燥が続くと、イモの肥大や品質に影響がでるため、早朝か夜間に畝間かん水を行い、畝間が白く乾かないように留意する。また、ハダニ類、アブラムシ類、セスジスズメ等の害虫防除を徹底する。